

**FY2023-3Q**  
(2022年10月-2023年6月)

## 決算説明資料

2023年8月9日

**SPRIX** 株式会社 スプリックス

(東証プライム 7030)

## MISSION

---

「教育」を通して、世界中の人に  
「人生の新たなステージ(春)」を届ける。

## VISION

---

「教育」でNo.1へ。

# FY2023-3Q決算説明

---



季節的に低調な四半期でも  
森塾業績の好調な推移が牽引し、安定した業績を達成。  
基礎教育関連事業の投資は、順調に推移。

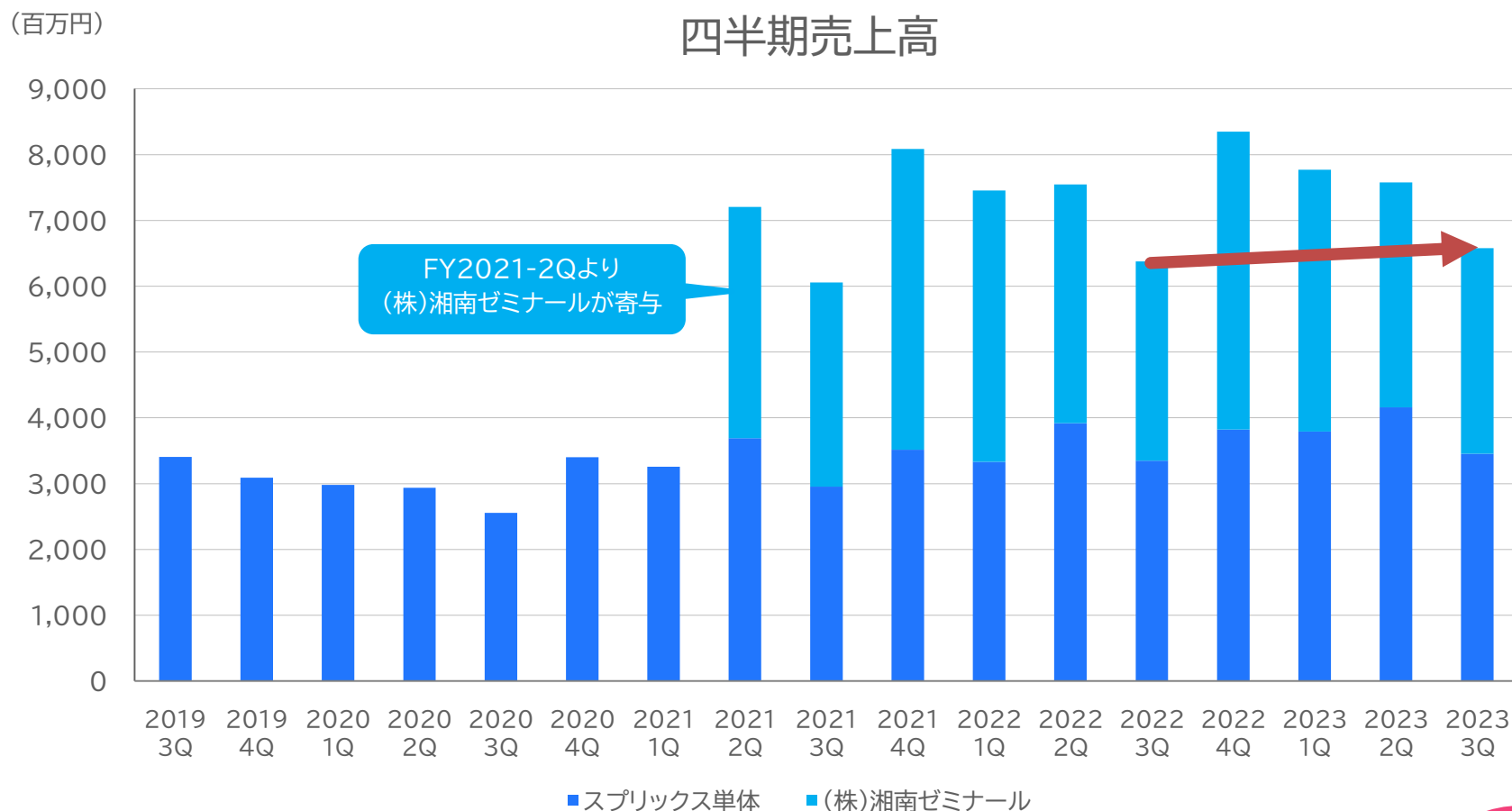
# FY2023-3Q累計 (2022年10月-2023年6月) — 決算概要

- 森塾 : 新規開校、入塾生徒数の堅調推移に加え、今春からの授業料値上げも寄与し、業績は安定
- 売上高 : 森塾の好調な業績が牽引、またその他事業も堅調に推移したことで、湘南ゼミナール、河合塾マナビスの軟調をカバーし、連結ベースでの売上高は増加。
- 営業利益 : 森塾広告(TVCM)の前倒し、計画通りの積極的な新規事業投資・基礎学力事業研究開発、および湘南ゼミナール、河合塾マナビスの軟調推移により減益となったが、計画に対して堅調に推移。

(単位:百万円)	FY2022 3Q累計 (実績)	FY2023 3Q累計 (実績)	増減金額 (増減率、%)	要因
売上高	21,109	21,750	+641 (+3.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スプリックス単体は、森塾の新規開校、入塾生徒数の堅調推移を筆頭に売上高は増加</li> <li>• スプリックス単体は、広告費の前倒し投下、基礎学力事業を始めとした積極的な研究開発費等の増加により、営業利益が減少(実質的には増益)</li> <li>• (株)湘南ゼミナールは、湘南ゼミナールと河合塾マナビスの生徒数減少を主要因として売上高、営業利益が減少</li> </ul>
営業利益 (利益率、%)	1,211 (5.7%)	119 (0.5%)	△1,092 (△90.2%)	
EBITDA (利益率、%)	2,057 (9.7%)	1,000 (4.6%)	△1,057 (△51.3%)	
親会社に帰属する 純利益 (利益率、%)	741 (3.5%)	△16 ( - %)	△757 (△102.2%)	

# FY2023-3Q — 売上高の分析(四半期ごとの推移)

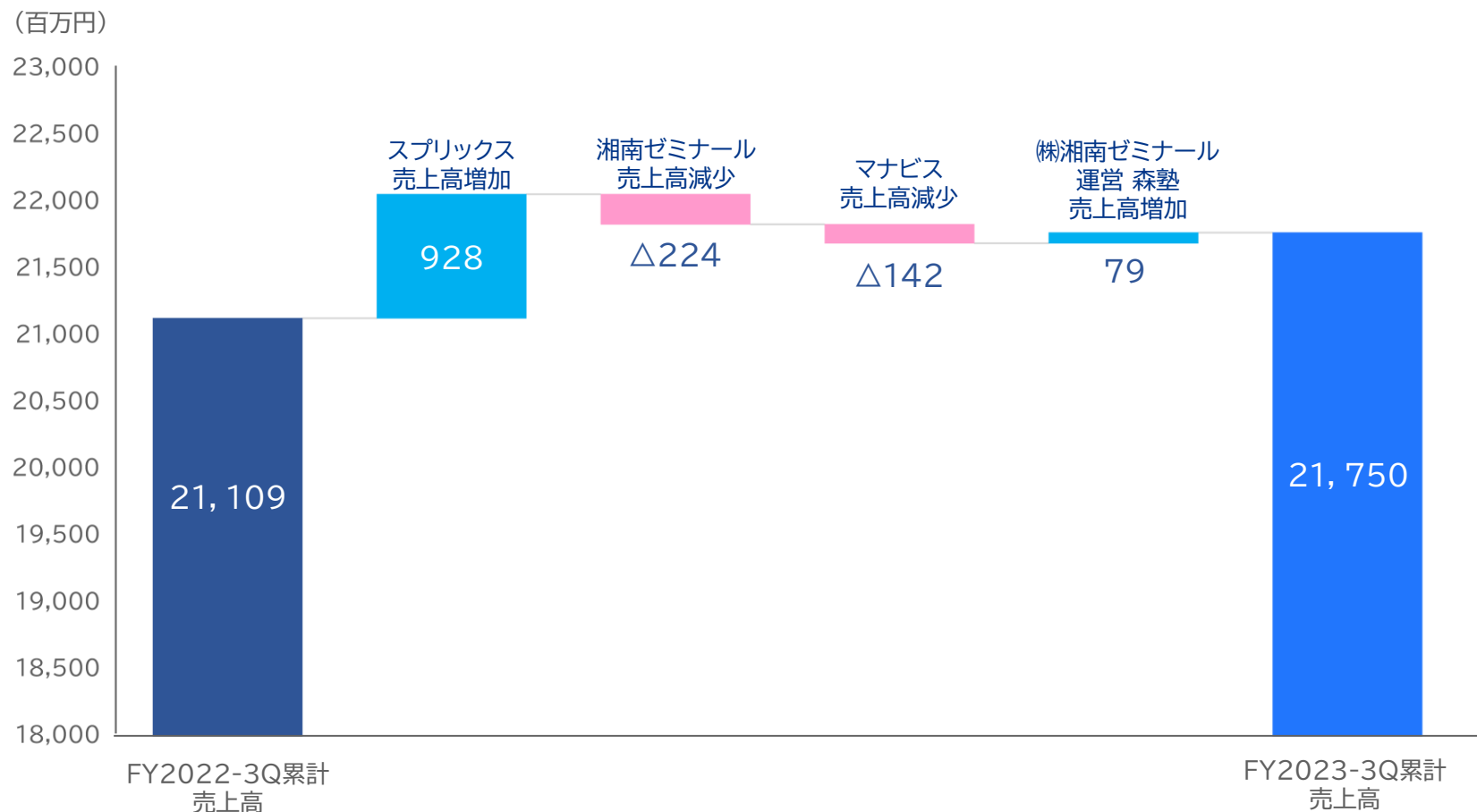
- 森塾の新規開校、入塾生徒数の堅調推移に加え、授業料の値上も寄与し、連結ベースでの3Q売上高は増加
- (株)湘南ゼミナール3Q売上高は、湘南ゼミナール、河合塾マナビス共に生徒数が減少したが、湘南ゼミナールの授業料値上げ、運営している森塾の堅調推移がカバーし、微増



(注) スプリックス単体と(株)湘南ゼミナールの営業成績を表す連結相殺前の数値であるため、合計値は連結売上高とは異なります。

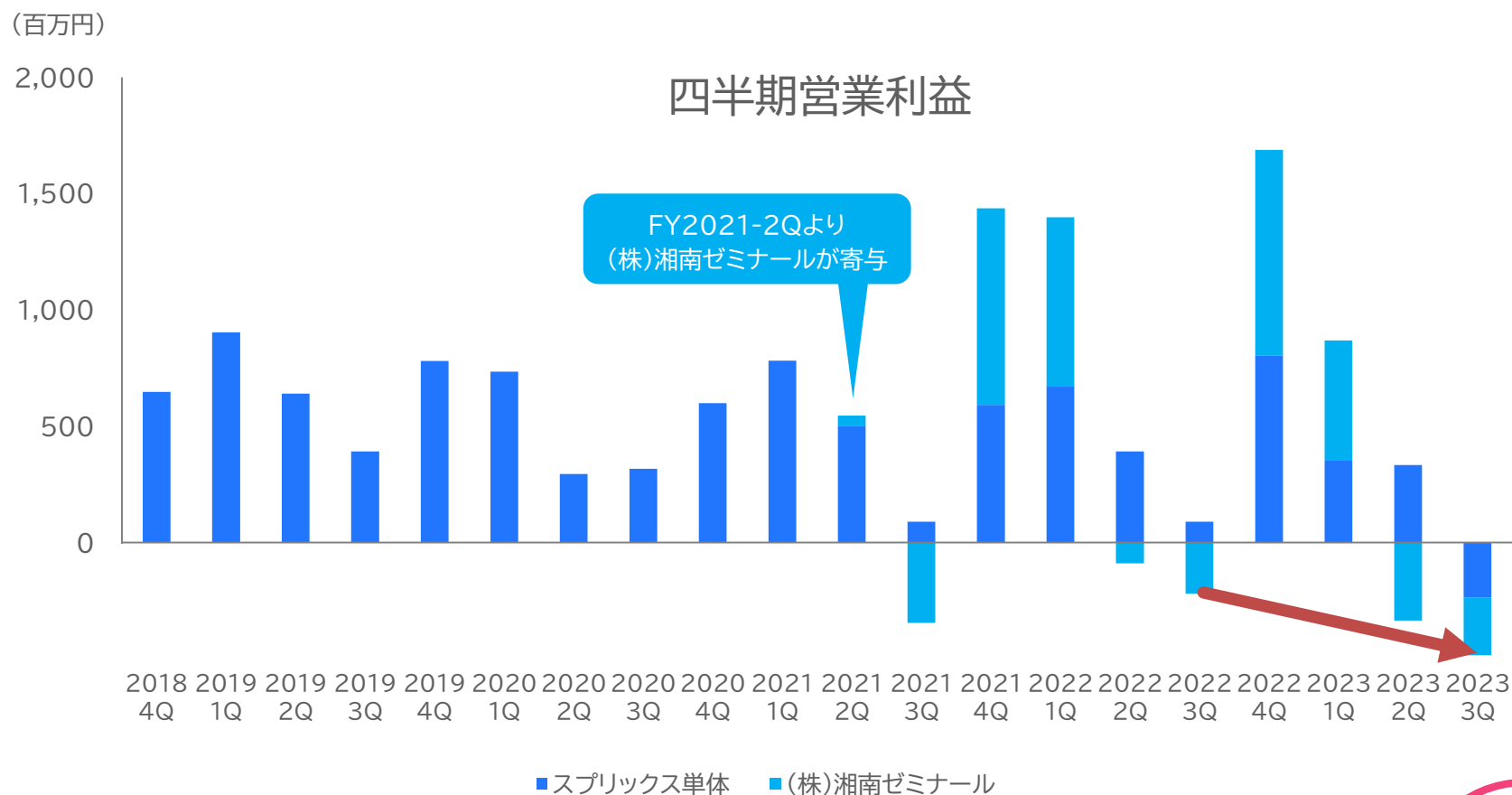
# FY2023-3Q累計 — 売上高の分析(前年同期比の差異)

- スプリックス単体は、森塾の新規開校、入塾堅調により、生徒数が安定的に推移し増収
- 湘南ゼミナール、河合塾マナビスは、生徒数が減少し減収



# FY2023-3Q — 営業利益の分析(四半期ごとの推移)

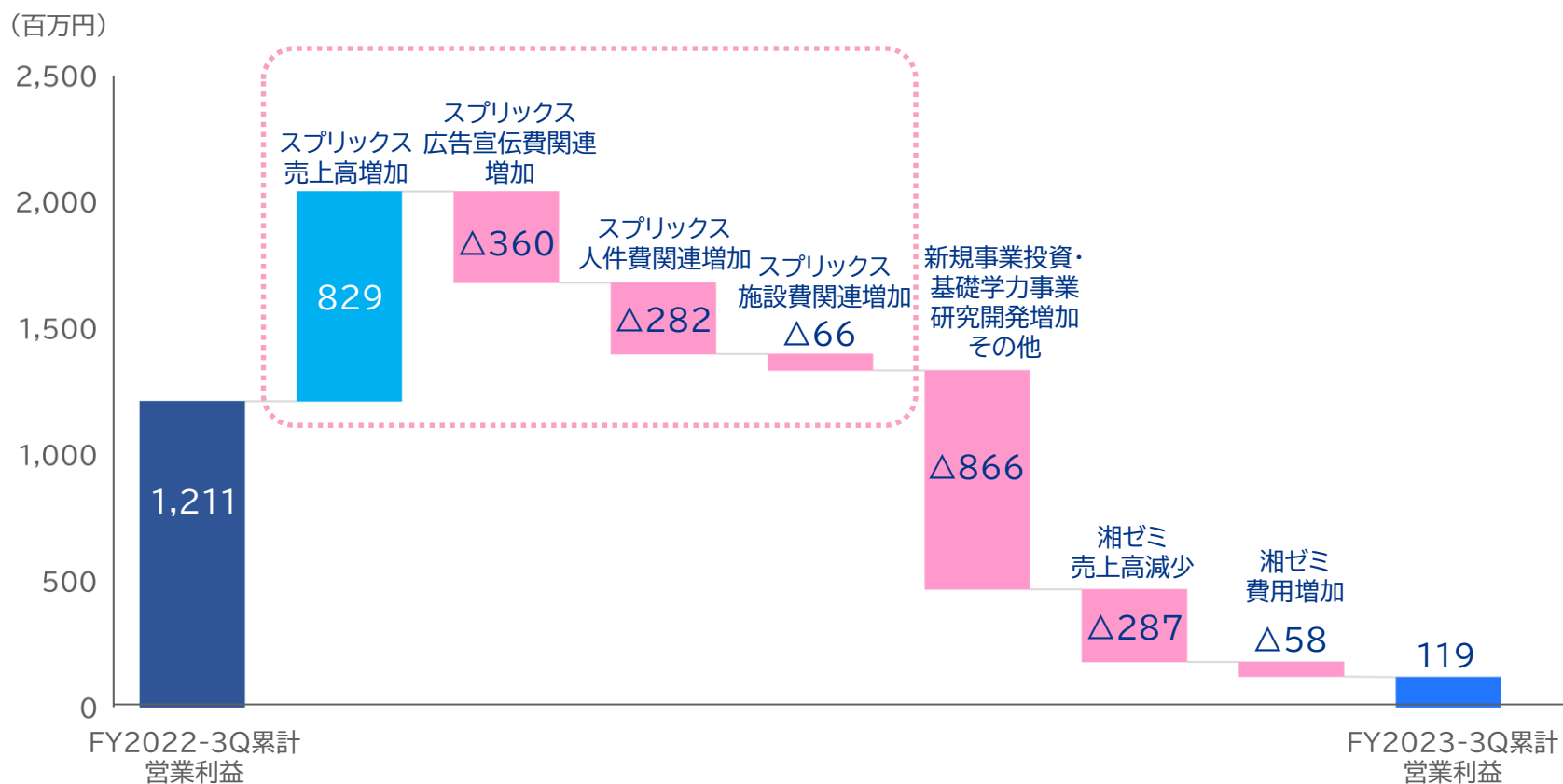
- スプリックス単体は、広告費の前倒し投下、および期初計画通りの積極的な新規事業投資・基礎学力事業研究開発が増加(実質的には増益)
- (株)湘南ゼミナールは、3Q(4~6月)は事業構造上、もともと低調なターム。営業利益については、1Q(10月~12月)と4Q(7月~9月)が牽引する。





# FY2023-3Q累計 — 営業利益の差異分析(前年同期比)

- スプリックス単体では、業績は好調に推移
- 広告宣伝費を前倒して投下、順調な新規開校、および計画通りの積極的な新規事業投資・研究開発(TOFAS等)が増加
- 湘南ゼミナール、河合塾マナビスの生徒数減少による減収の影響あり









# FY2023-3Q累計 — セグメント別業績

(単位:百万円)	売上高	前同比	営業利益	前同比	要因・トピックス
	11,356	+714 (+6.7%)	2,339	△2 (△0.08%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規開校、入塾堅調、今春からの授業料値上げにより、業績は好調</li> <li>広告費を前年より前倒して投下したことによる減益で、実質的には増益。</li> <li>今期は18教室開校(計画通り)</li> </ul>
	6,173	△224 (△3.5%)	309	△298 (△49.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長のための土台固め期間であり、新規出店は抑制</li> <li>生徒数減少傾向により減収となっているが、春の合格実績向上を生かし、マーケティング活動により中期的に回復を目指す</li> <li>今期は4教室開校予定</li> </ul>
	1,987	△142 (△6.6%)	△25	△149 (-%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長のための土台固め期間であり、新規出店は抑制</li> <li>大学入試における推薦入試の伸長により高校3年生の生徒数が課題</li> <li>今期は3教室開校予定</li> </ul>
その他     	2,334	+299 (+14.6%)	△664	△509 (-%)	基礎学力事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>TOFASは世界30か国以上、受験者数は累計200万人を突破</li> <li>プログラミング能力検定(プロ検)は全国2,234会場で実施、受験者数は国内No.1※</li> </ul> その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な研究開発、投資を実施</li> </ul>

※ 日本マーケティングリサーチ機構調べ(2022年11月)

## FY2023(通期見込み)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年7月に7教室開校。年間で関東圏に計画通り18教室開校 <b>New!</b></li> <li>在籍生徒数はコロナ禍以前の水準が見込まれ、新規教室開校の寄与等により堅調な推移の見込み。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年6月末までに「湘南ゼミナール」2教室、「横浜翠嵐Vコース」12教室開校 <b>New!</b></li> <li>「横浜翠嵐Vコース」注力により、横浜翠嵐高校合格実績が伸長(昨春77名、今春84名)。</li> </ul>	
<b>河合塾マナビス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年6月に1教室開校(前年同期比2教室増) <b>New!</b></li> </ul>	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン専門個別指導塾生徒数No.1の知名度を活かし、更なる生徒数増の見込み ※1</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年春に8教室開校し、195教室に。(2023年6月末)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>河合塾との協業による高校生向け教材の開発を推進</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年6月に第10回検定を実施。累計受験者数が200万人を突破。 <b>New!</b></li> <li>2023年夏、子どものための制作×プログラミング「ロボ団」校舎にて、プログラミング能力検定の全面実施(123校舎)。 <b>New!</b></li> <li>プログラミング能力検定(プロ検)が受験者数でNo.1を獲得 ※2</li> </ul>

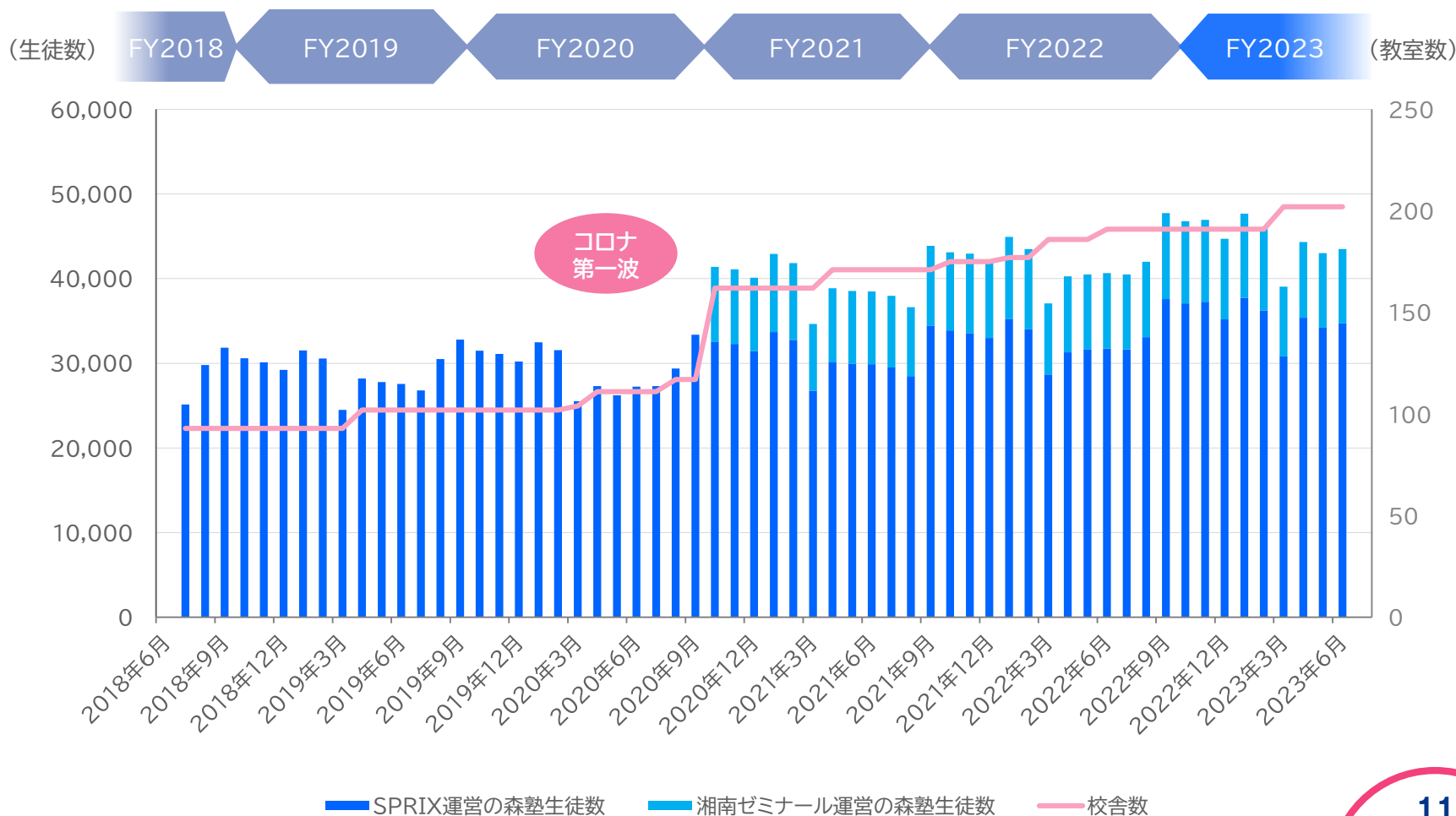
※1 日本マーケティングリサーチ機構調べ(2022年1月)

※2 日本マーケティングリサーチ機構調べ(2022年11月)

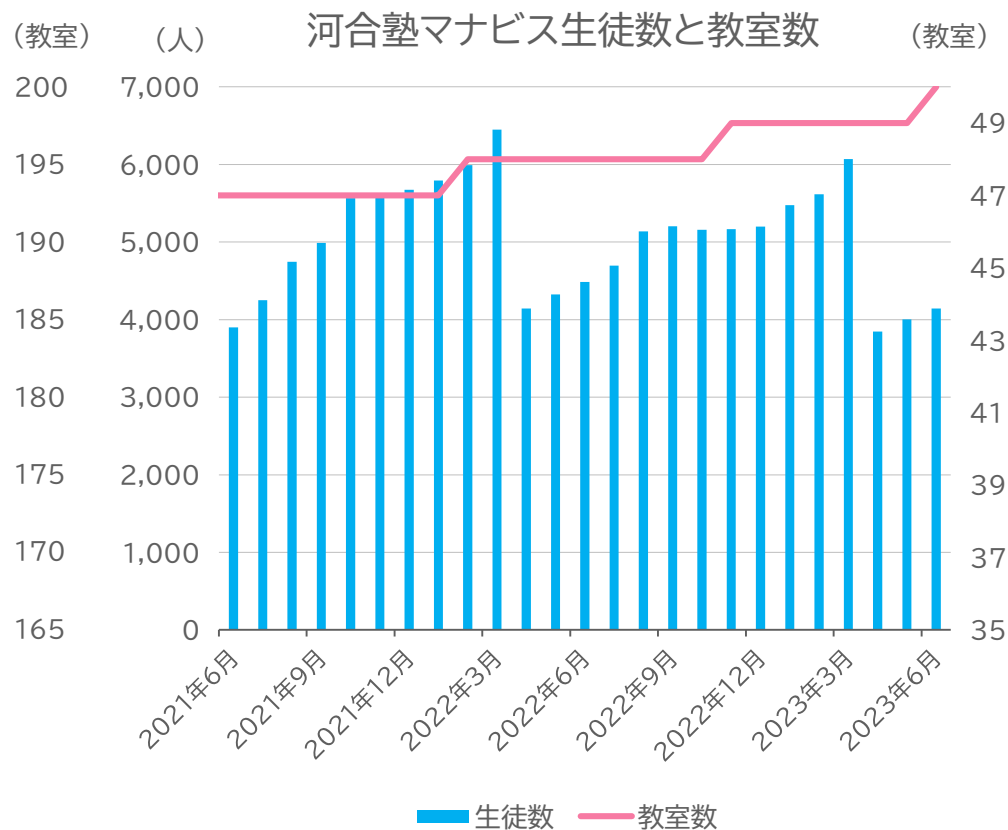
# (参考)森塾の合計生徒数と教室数

- FY2023-3Qの教室数は202教室、生徒数は43,494人

## 森塾生徒数と教室数



# (参考)湘南ゼミナールと河合塾マナビスの生徒数と教室数



## 業績予想と進捗状況について

---

# FY2023-3Q累計 — 期初予想に対する進捗状況

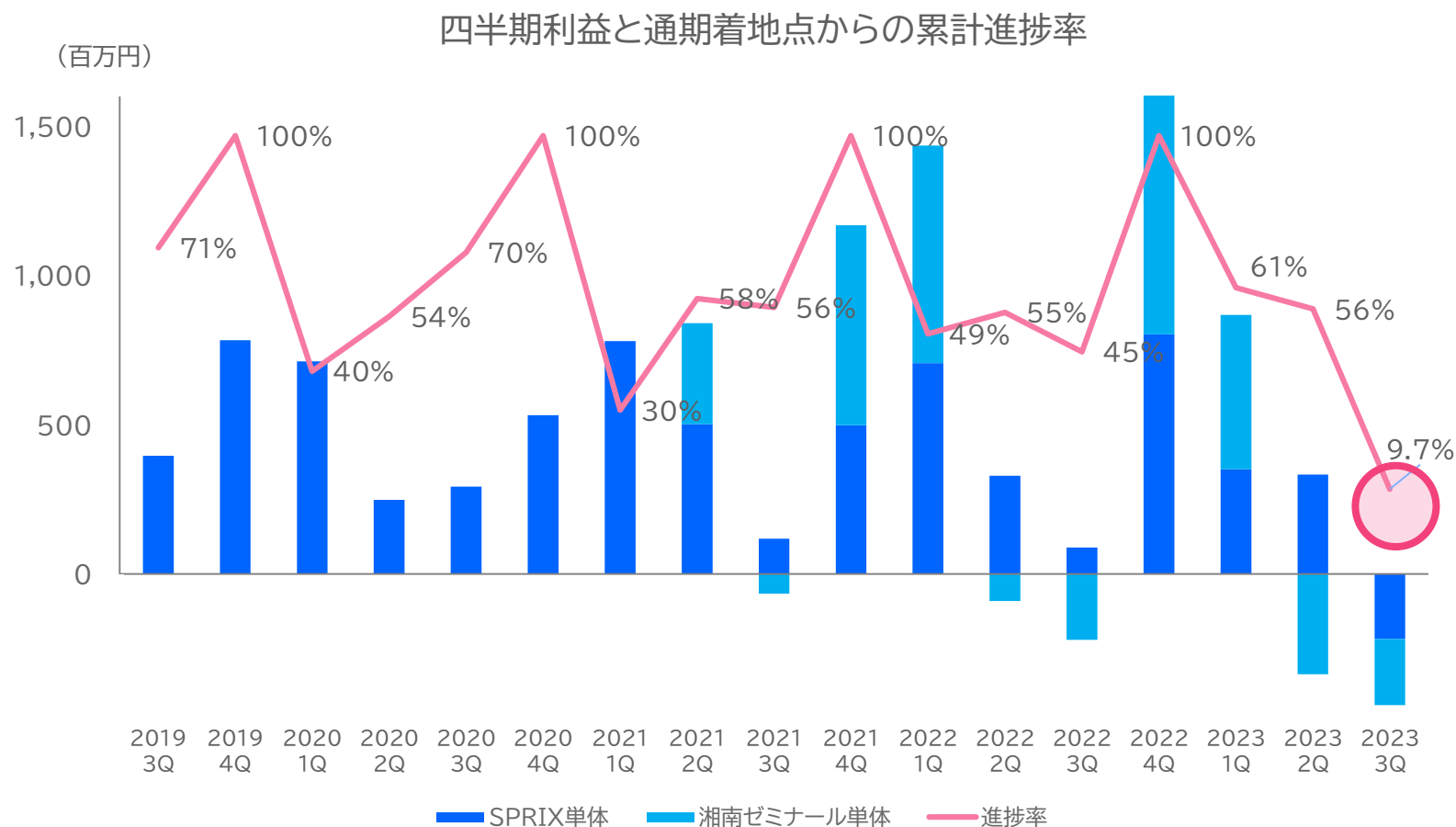
- 各進捗状況は計画通り堅調な推移。
- 湘南ゼミナールの事業構造上、業績は1Q(10-12月)と4Q(7-9月)が牽引する傾向。
- 営業利益は、計画上の3Q累計予算に対して実績が上回る進捗。

(単位:百万円)	FY2023 (予想)	FY2023-3Q (実績)	進捗率 (%)
売上高	30,777	21,750	70.6%
営業利益 (利益率、%)	1,226 (4.0%)	119 (0.5%)	9.7%
EBITDA (利益率、%)	2,354 (7.6%)	1,000 (4.6%)	42.4%
親会社に帰属する 純利益 (利益率、%)	674 (2.2%)	△16 (- %)	- %

※連結予想は2022年11月11日に開示したのになります。

# FY2023-3Q — 営業利益(進捗率の季節性)

- 湘南ゼミナールは、営業利益の大半を、1Q(10-12月)と4Q(7-9月)が牽引
- 通期予想に対しては順調に推移。通期営業利益は予想通りとなる見込み

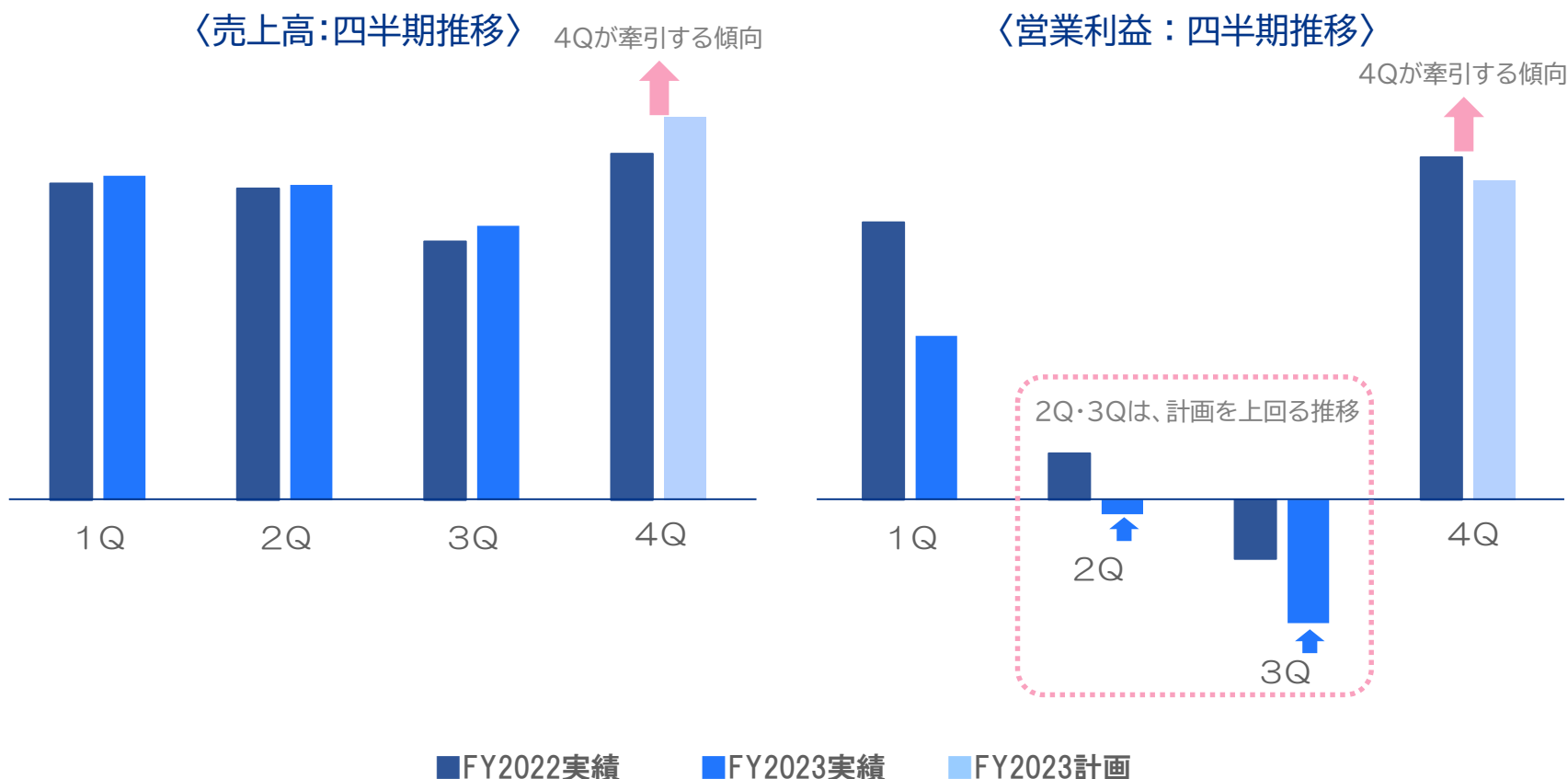


※SPRIX単体、湘南ゼミナール単体営業利益は、連結相殺前の数値を表示しております。  
 累計進捗率は、連結営業利益の数値にて表示しております。



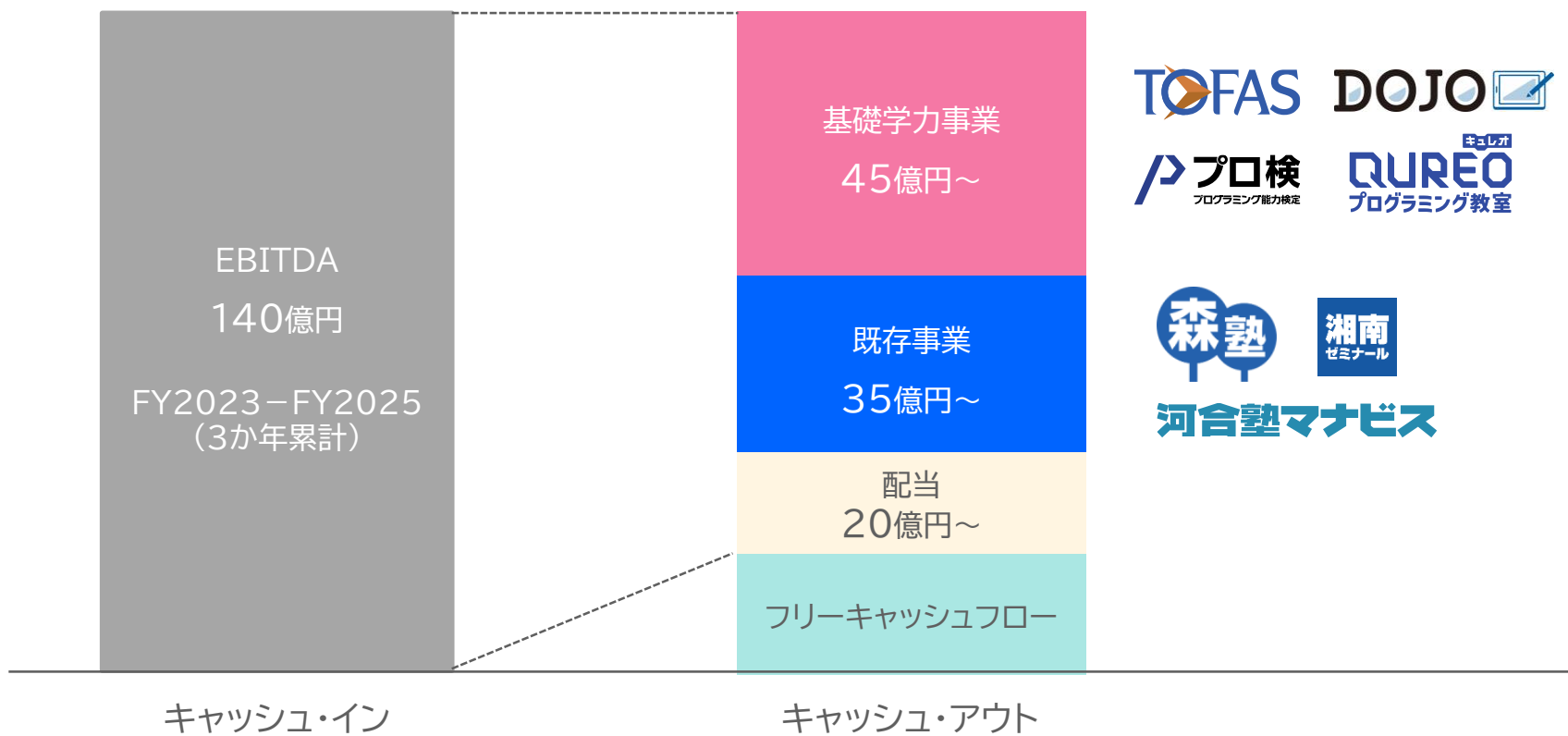
# 通期業績予想は達成可能

- 売上高 : 3Q累計の対計画進捗率は70.6%。ほぼ計画通りに進捗。
- 営業利益 : 新規事業投資・基礎学力事業研究開発は順調に推移(今期計画13億に対して7割消化)。森塾の堅調な推移に加え、湘南ゼミナールと河合塾マナビスの利益が大きく伸びる計画であり、当初計画通りの着地を見込む。



# (参考) キャッシュ・アロケーションー3か年計画(FY2023~FY2025)

- 基礎学力事業、および既存事業への投資はEBITDAの範囲内
- FY2023, FY2024はEBITDA減少も、38円の配当を維持予定



## プライム市場維持基準の適合状況と スタンダード市場への選択申請について

---

# スタンダード市場の選択

- 持続的な成長に向けて計画的な投資を優先しているが、短期的な(2024年9月期まで)営業利益抑制等により、現時点では、流通時価総額の拡大にはつながらず。
- 当社株式を安心して保有・売買できる環境の確保、および、経営資源を中長期的な計画遂行に振り向けることが重要と判断し、スタンダード市場への選択を申請。
- 今後も、当社グループの成長と企業価値向上に直結する活動に注力。

## 〈上場維持基準の適合状況〉

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	月平均売買高	純資産の額
当社状況	FY2022末時点 ※1	3,760人	63,251単位	64億円	36.1%	8,157単位 ※2	正
上場維持基準	プライム市場	800人	20,000単位	100億円	35.0%	—	正
	スタンダード市場	400人	2,000単位	10億円	25.0%	10単位	正
適合状況	プライム市場	適合	適合	不適合	適合	—	適合
	スタンダード市場	適合	適合	適合	適合	適合	適合

※1:適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況表等をもとに算出を行ったものです。

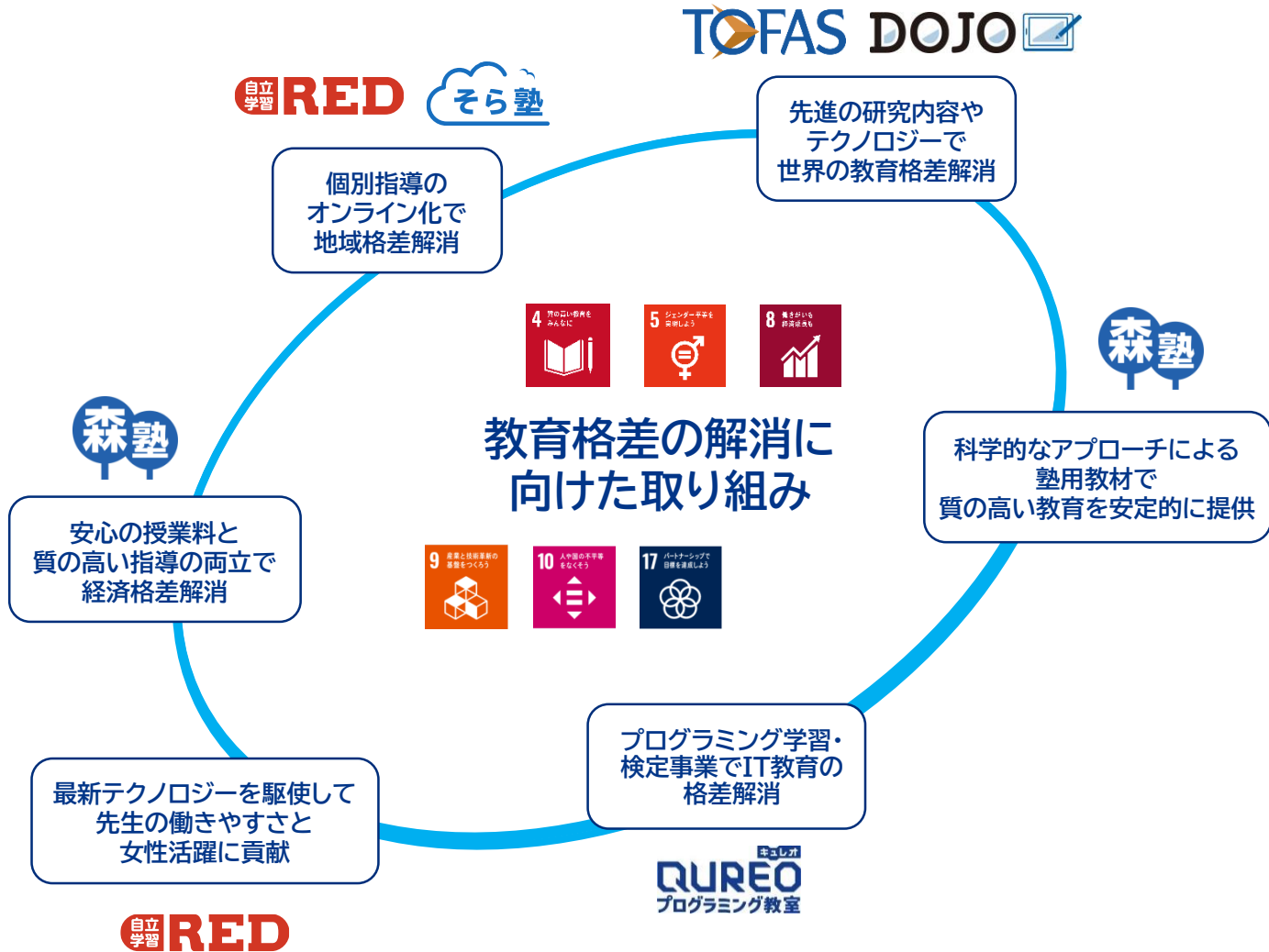
※2:月平均売買高は、2023年1月から2023年6月までの売買高を月平均として、当社にて試算を行なったものです。

---

## 參考資料

---

# ESGのS(社会)の分野に重点的に取り組む



## 人的資本投資はビジネスモデルの要

- 「教務の仕組み化」で、講師の採用・育成・定着の負担を軽減
- 「やりがい」「コミュニケーション力」を重視することで講師の採用枠を広げる
- 「個別指導で業界シェアNo.1になる」「塾業界をあこがれの職業にする」ことでさらなる人材獲得を見込む



## (参考資料) データで見るSPRIX (ファクトシート)

(単位:百万円)	FY2018 (単体)	FY2019 (単体)	FY2020 (連結)	FY2021 (連結)	FY2022 (連結)	FY2023-3Q (連結)
売上高	10,451	11,410	11,843	25,901	29,352	21,750
営業利益	2,467	2,741	1,787	2,437	2,778	119
EBITDA	2,569	2,851	1,937	3,385	3,938	1,000
総資産	9,967	10,861	11,485	19,277	19,574	18,070
純資産	6,469	7,642	8,091	8,864	9,774	9,129
現金及び現金同等物の期末残高	6,825	6,819	7,308	6,163	5,935	4,838
自己資本比率(%)	64.9	70.4	70.2	45.9	49.8	50.3
売上高営業利益率(%)	23.6	24.0	15.0	9.4	9.5	0.5
EBITDAマージン比率(%)	24.5	24.9	16.3	13.0	13.4	4.5